

## 人として魅力的であること

失敗は敗北ではない。また、試合に負けたとしても、それは失敗ではない。では、成功とは何だろう。勝利とは何だろう。同じ理由によって、成功は勝利ではないし、試合に勝つことそのものが成功と同じ意味を持つわけではない。

テニスの試合での勝利や成功を「相手を打ちのめすこと」「相手を優越すること」と考える愚か者も世の中には存在する。彼は、同じ思考パターンによって、たった一度の敗北で、簡単に打ちのめされてしまうのだ。だって、彼にとって勝敗は「打ちのめすか」「打ちのめされるか」の違いでしかないのだから。この思考パターンに陥った愚か者は、一つのプレーの成功によって「相手を優越した」と勘違いする。同様に、一つのプレーの失敗によって自分を責め、誇りを<sup>おとし</sup>貶め、自ら不愉快になるのだ。

ところで聞くが、お前は何のためにテニスをしているのか。時々立ち止まって考えてみる必要がある。以前、同じ質問に「テニスをしているときの自分はけっこう好きだから」と答えた女子部員がいたが、彼女はスポーツする意味を十分に理解していたに違いない。少なくとも彼女は、試合中や練習中に苛ついたり、不愉快な態度を見せたことは一度もなかった。仮に彼女が一つのミスによって不愉快になるようなプレーヤーなら、「テニスをしているときの自分」は大嫌いであるに違いないし、それだと彼女は、テニスをする意味さえ無くしてしまうのだ。そんな彼女を見ながら、テニスをする目的は「人として魅力的であること」かもしれないと思ったりしたものである。

一つのプレーは、そのようなボールに対して、そのように体を動かし、そのようにラケットを振った結果としての出来事ではない。その事実をデータとして頭と体にインプットし、次のプレーに備えるだけで十分なのだ。仮に結果が良かったからといって、相手を打ちのめしたことはないし、優越したことにもならない。結果が悪かったからといって、自分がダメなのでもないし、打ちのめされることもない。ましてや「ナニやっただよ」と自分を責める必要など全くないのだ。だって、失敗は敗北ではないのだから。次はもっとうまくやれるに決まっているのだから。そしていつもお前を失敗に導く張本人は、「ナニやっただよ」と自分を責め立て、テニスをしているときの自分を嫌いにさえさせてしまいかねない、お前自身の誤った心の持ちようなのだ。

オリンピックのスキー競技では、小さな一つの失敗が勝敗を分ける様をしばしば目にした。しかし幸いなことに、テニスは失敗のスポーツである。失敗は何度でも許されるのだ。失敗を重ねることによって次の成功が用意されることだってある。だから、どんなに細心の注意を払い、集中したとしても、イメージとは異なる「失敗」が必ず訪れるのだ。そのたびに自分を責め、不愉快になっているのは、成功など決しておぼつかないじゃないか。

さあ、春季大会だ。結果を恐れてはならない。失敗を怖がってはならない。そして、人として魅力的であれ。それが、勝利と成功への近道である。